

震災を風化させないために

【防災・減災フェスタin塩竈】

9月8日(日)開催



講演会での主な内容…

「自助」「共助」「公助」の連携と協力

大規模な災害が発生した場合は、公的機関が行う「公助」だけでは限界がある。自らを自らで守る「自助」、地域でお互いに助けあう「共助」それぞれが役割に応じて、連携・協力することが大変重要である。

○それぞれの役割として

- 【自助】 家屋の耐震化や家具の転倒防止、食糧・飲料水の備蓄、非常持出品の準備など
- 【共助】 自主防災組織の結成と防災マップの作成、防災資機材の備蓄、避難所運営など
- 【公助】 避難路・避難場所の整備、津波避難ビルの指定、避難誘導板の整備や防災啓発、防災教育など

○繰り返し訓練を行う

災害への備えは、常にさまざまな災害を想定し、繰り返し訓練することで身につけていくものである。消火、避難、救助、医療救護などの実技訓練や災害状況を想定し、そのときの対応を模擬的に体験する図上演習を行い、迅速・的確な対応を身につけておく必要がある。

東日本大震災から2年6カ月が経過し、震災の経験を風化させることなく、次の防災・減災対策へつなげるための啓もう事業として、震災記録写真・防災資機材の展示のほか、非常時にも役立つビニール袋を使った簡単調理実習や救命講習会、初期消火訓練、濃煙体験、将来の消防団を担う子どもたちへの消防ポンプ車搭乗体験などを行いました。

その中で開催された「防災講演会」には、市民・自主防災組織などの皆さん114人が参加、災害・危機管理が専門の吉井教授（東京経済大学）から「東日本大震災に学ぶこれからの防災・減災対策」をテーマとした講演会が行われました。



災害に備えるためには「自助」「共助」「公助」それぞれの連携と協力、そして日ごろからの訓練が重要です。

本市では、引き続き、総合防災訓練や防災研修会を実施していきますので、皆さんのご参加をお願いします。

問 市民安全課防災係 ☎364-1111 (内線245)

もしものとき・・・備えがあれば安心

災害時の母子にとって大切なのが紙オムツや粉ミルク。まずは、各ご家庭で「3日間生き延びるための母子避難袋」を準備しておきましょう。

例えば…

- 紙オムツ、粉ミルク、離乳食、ペットボトル入りの飲料水
- ほ乳瓶、消毒用の衛生材料、やかんやポットなど、お湯を沸かすための道具
- 暖房器具、おくるみ、ガーゼ、お尻拭き用の衛生材料
- ☆アレルギーミルク・離乳食についてもある程度の備蓄は必要。
- ☆ぜんそくなどの疾患を持つ子どもの薬は、不測の事態に備え、ある程度備蓄しておく。



貴重品類、非難用具、生活用品、救急用具、非常食品、衣料品、携帯用カイロなど、避難する時にまず持ち出すべきものと併せて準備しましょう。また、ご家族でお一人お一人ごとの避難場所を改めて確認することも安心材料の1つですね。

問 保健センター ☎364-4786



～話せる時に、話せる人へ、話そう～

震災を経験し、中には「今はもう大丈夫!!」と思っている方もいるでしょう。しかし、何かをきっかけにその時の記憶がよみがえることもあります。そのような時、お母さんの不安が少しでも取り除かれていると、お子さんの話を聞きやすくなります。震災だけでなく、日々の子育てのこと何でも、自分の話したいタイミングで話せる人に話してみると、少し気持ちが楽になれるかもしれません。保健センターも話せる場所の1つです。心理士と話してみたいと思う方も、ぜひご連絡ください。

